



同窓会会報

発行
 福島成蹊高等学校
 同窓会
 福島市上浜町5-10
 電話（522）2049
 発行人 石井 都
 印刷所 ㈲三共印刷所



昭和55年度 卒業アルバムより

昭和45年度 卒業アルバムより



世代をつなぐ桃李の絆

同窓会会長 石井 都
(昭和41年度卒)

今年も穏やかな年になりますようにと願いつつ新年を迎えました。皆様、今年もよろしくお願い致します。

昨年、三月十一日以降、東日本、とりわけ福島県は、大震災に伴う原発問題、風評被害の数々と、かつて経験した事のない極めて厳しい状況に置かれています。皆様におかれましても、困難な状況を強いられる事と思います。

制服も間に合わず、各中学校の制服姿で、入学式に出席した生徒達でしたが、「私達が震災の復興の担い手になる」と力強く誓いの言葉を述べた姿が、頼もしく、忘れられない入学式になりました。

総会開催も、どの様にすべきか検討しましたが、こんな時だからこそ、皆様の元気な

お姿を拝見して、母校の今を知って頂きたいと、六月十九日にグリーンパレスで盛会裏に行なう事ができました。遠くは神奈川県、東京から初参加された方々や、新聞を見て昨年を上回る出席者数に同窓の絆の深さを感じました。

役員改選を行ない新役員八名を加え、十七名で、百周年に向け新たな気持でスタートを切りました。

大正〜昭和〜平成と、様々な時代を超えて築き上げた、伝統の重さ、揺るぎない桃李の精神。今、同窓会室は百周年一色、キャッチフレーズは、「世代をつなぐ桃李の絆」です。

誇りたかき母校の同窓会運営に、さらなる御指導、ご支援をよろしくお願い致します。

母校は「成蹊」と言える誇り



同窓会総会に出席して

宍戸 ひろみ

(昭和57年度卒)

震災から三ヶ月同窓会総会の案内を見て、初めて姉妹で参加させていただきました。不安と緊張の中総会が進行、いつの間にか同窓生の皆様方と楽しい時間を過ごしてしました。総会後の音楽コンサートでは素敵な歌声を聴く事ができ感動と同窓生の活躍を嬉しく思いました。姉妹でお世話になりました先生方にもお会いする事ができ学生時代に戻った様でした。来年は創立百周年との事、是非三姉妹で同窓会総会に参加させていただきたいと思っております。

関根 あずさ

(平成22年度卒)

初めての出席でとても緊張しましたが、卒業して以来会えなかった友人や担任の先生に会うことができたので楽しく過ごすことができました。テールをご一緒させていただいた大先輩方ともお話できてよかったです。友人と担任の先生とは、春休み中のことや進学先の話など近況報告が多かったですが、数ヶ月前までは毎日一緒にいた友人達が元気でやっていることが聞いてよかったです。嬉しい再会と新しい出会いができたことに感謝します。

菅野 純果

(平成22年度卒)

私は幹事になり今年6月に開催された同窓会総会に出席しました。成蹊の懐かしい先生方や友達に会えたのでそれだけで楽しかったです。また、さまざまな年代の幹事の方も初めて顔合わせをし、私もこの中の一員になれたんだと思うと嬉しかったです。料理



全員で校歌を歌う



新役員一同

山崎 ヨネ

(昭和21年度卒)

去る同窓会には会長さん初め役員の皆様の御尽力で盛大に行われ厚く御礼申し上げます。卒業後60余年初めて会う方もあり、桃李のマーク・校歌もタジタジでした。記念写真をお送り下さり本当に有難うございました。これを機に来年もとファイトをもやし健康に気をつけて頑張ります。本当にお世話になりました。皆様によろしく。

福島成蹊高等学校同窓会一般会計決算書

平成22年4月1日～平成23年3月31日

1. 収入金額 2,207,506 2. 支出金額 1,767,812 3. 差引金額 439,694

収入の部				
項目	本年度予算額	本年度決算額	増減	適用
会費	1,500,000	1,488,000	△12,000	4,000×372人
預金利子	1,000	213	△787	普通預金利子
雑収入	5,000	234,000	229,000	総会御芳志・会費
繰越金	485,293	485,293	0	前年度より繰越
合計	1,991,293	2,207,506	216,213	
支出の部				
項目	本年度予算額	本年度決算額	増減	適用
事業費	500,000	652,272	152,272	総会等
会議費	100,000	19,130	△80,870	役員会、幹事会
会報発行費	200,000	150,000	△50,000	会報第17号
協力費	400,000	400,940	940	全国大会激励、広告協賛費
交誼費	50,000	18,053	△31,947	慶弔費
通信費	150,000	141,060	△8,940	切手、名簿補助等
旅費	5,000	0	△5,000	
事務費	100,000	86,357	△13,643	印刷費等
特別積立費	300,000	300,000	0	基金積立
予備費	186,293	0	△186,293	
合計	1,991,293	1,767,812	△223,481	

特別積立金 (平成23年3月31日現在) 12,558,857円

上記帳簿及び関係書類について監査の結果正確であることを認めます
平成23年5月7日 監事 杉内 文子 櫻内真智子

会務報告

平成22年

- 4月 8日 入学式
- 10日 定例役員会
会報16号発送
- 27日 会計監査
- 5月 8日 定例役員会
- 6月12日 墓参 (初代・4代校長)
- 13日 総会開催
- 21日 総会反省会
- 7月10日 定例役員会
- 9月 4日 定例役員会
- 5日 桃李祭
- 16日 会報17号編集委員会
- 10月 9日 定例役員会
- 11月13日 定例役員会
- 12月11日 定例役員会

平成23年

- 1月15日 定例役員会
- 25日 会報17号編集会議
- 28日 新幹事顔合わせ会
- 2月28日 同窓会入会式
- 3月 1日 卒業式

百年のあゆみ

大正2・6

福島市万世町に「私立福島成蹊女学校」創立。
(初代校長に前県立福島高等女学校校長) 熊田子之四郎先生が就任。
福島市宮町に移転した。以後45年居住した。

桃李不言下自成蹊

初代校長 熊田先生書

財団法人福島成蹊女学校と校名を改称。
財団法人私立福島成蹊女学校と改称。

昭和8・6



設置学科は本科と教員養成科の二科とした。
設置学科に研究科を新たに設置した。
創立10周年を迎えた。(6月)
設置学科に別科及び選科を加えた。
創立20周年記念式典挙行。
校歌・校旗が制作された。
設置学科を本科第一部と第二部に再編した。
創立30周年記念式典挙行。

財団法人福島成蹊女子商業学校と改称。
一谷源八郎先生が校長(二代)に就任。
財団法人福島成蹊中学校に復元。
財団法人福島成蹊中学校を併設した。
北川次男先生が校長(三代)に就任。
財団法人福島成蹊女子校等学校に改称。
中学校を福島成蹊女子高等学校
付属中学校と改称。
学校法人福島成蹊学園を設立した。

明石智真先生が校長(四代)に就任。
上浜町に校舎・体育館建築開始。
宮町校舎より上浜町校舎へ全校移転。
全工事が完了。



茶室「不二庵」が完成。

「こみち寮」(合宿所)が完成。
佐藤実先生が校長(五代)に就任。



玉川春雄先生が校長(六代)に就任。



運動部室(モルタル2階建)を新築。
現本校舎の建築工事着手。

新校舎完成し全校移動を完了。

平成元・60

栗村道彦先生が校長(七代)に就任。
鈴木次男先生が校長(八代)に就任。

山田記念体育館 竣工。

東校舎増築 竣工。



菅野悦雄先生が校長(九代)に就任。

成田努先生が校長(十代)に就任。

校名「福島成蹊高等学校」と改称し男女共学とする。
金子昭七先生が校長(十一代)に就任。
南校舎増築工事 竣工。

福島成蹊中学校校舎完成。

福島成蹊中学校開校。中高一貫教育スタート。

本田哲朗先生が校長(十二代)に就任。
中学校敷地内に、茶室「自蹊庵」完成。

22・10

21・4 20・11 19・4 18・4 17・2

16・4 14・9 13・4

12・4 8・4 6・4

4・11 4・9 4・10

3・6 2・4

60・4 59・6

58・6 54・11 53・8

52・7 52・6

50・5 48・11 46・3

40・3 38・11 36・5

34・10 33・9 30・5

28・11 26・4

23・4 22・12 21・3

20・12 19・3 18・6

昭和8・6

12・1 9・4

3・6

設置学科は本科と教員養成科の二科とした。

設置学科に研究科を新たに設置した。

創立10周年を迎えた。(6月)

設置学科に別科及び選科を加えた。

創立20周年記念式典挙行。
校歌・校旗が制作された。
設置学科を本科第一部と第二部に再編した。
創立30周年記念式典挙行。



設置学科は全日制家庭科及び普通科、専攻科とした。



創立40周年記念式典挙行。
新校旗が完成し、樹立式を挙行。
卓球部インターハイで初優勝。
バレーボール部インターハイで初優勝。卓球・全種目制覇。

学期を二学期から三学期に改定(4月)
創立50周年記念式典挙行。

創立以来最高の卒業生を出した。(四六九名)
ソフトボール部インターハイで初優勝。
音体部インターハイで初優勝。



創立60周年記念式典挙行。
「文化クラブ発表会」を「桃李祭」と名付け開催。

バスケットボール部インターハイで初優勝。
「第一回合唱コンクール」を実施。

生徒募集定員、次年度より普通科5学級、家庭科3学級にすることになった。
全国インターハイ開会式(信夫ヶ丘競技場)に参加。

創立70周年記念式典挙行。
水泳部インターハイで初優勝。



普通科に進学課程を設置。
進学者が就職者を初めて上回った。
フェンシング部インターハイで初優勝。

愛唱歌「いつか小蹊が」(小椋佳作詞・作曲)完成。
ギタークラブ全日本コンクール銅賞。
新制服を確定し、一学年より着用。

創立80周年記念式典挙行。
家庭科募集中止。進学・普通・情報・生活文化を設置。



普通科一括募集。二次年より国立大・私立大・看護医療・短大・専門学校・生活文化福祉を設置。
創立90周年記念式典挙行。



特進文・理、普通文・理、普通の5コース設置。
全面共学となる。野球部新設



昭和18年同窓会立ち上げ
校長が同窓会長兼務

昭和24年まで兼務
高木八重就任



昭和36年 11月

同窓会会員名簿第一回作成

昭和38年11月 総会開催

昭和40年11月 総会開催

昭和43年6月 総会開催

昭和45年6月 総会開催

昭和46年11月 総会開催

昭和48年11月 総会開催

昭和51年

同窓会会員名簿第二回作成

昭和58年6月

佐藤ロク会長就任



昭和59年4月

同窓会総会開催

昭和61年7月

同窓会会報 創刊号発行

平成3年新体育館に綴帳贈呈

平成6年6月 同窓会総会開催

丹野リン会長就任

平成7年3月

同窓会会報 第二号発行

平成8年

同窓会会員名簿第三回作成

平成9年5月

民報ロイヤルホール初外部総会開催

同窓会会報 第三号発行

平成10年2月

同窓会会報 第四号発行

平成11年6月 総会開催

同窓会会報 第五号発行

平成12年6月 総会開催

同窓会会報 第六号発行

平成13年6月 総会開催

同窓会会報 第七号発行

平成14年6月 総会開催

同窓会会報 第八号発行

平成15年6月 総会開催

同窓会会報 第九号発行

平成16年6月 総会開催

同窓会会報 第十号発行

平成17年6月 総会開催

同窓会会報 第十一号発行

平成18年6月 総会開催

同窓会会報 第十二号発行

平成19年6月 総会開催

同窓会会報 第十三号発行

平成20年6月 総会開催

同窓会会報 第十四号発行

平成21年4月

中学校校旗寄贈

6月 総会開催

同窓会会報 第十五号発行

石井都会長就任

平成22年6月 総会開催

同窓会会報 第十六号発行

平成23年3月

卒業証書フォルダー寄贈

6月 総会開催

同窓会会報 第十七号発行

平成二十三年度進路状況

進路指導部長 二瓶 貴之

今年度の進路状況は、未曾有の大震災の影響により被災地の受験生の学力不足や家計急変による進路変更の増加等があり、様々な不安を抱えながらのスタートとなりました。更に長引く経済不況や放射能汚染等、県内の受験生に与えた苦悩は計り知れません。そのような中で、全国的な四年制大学の志望動向は、就職に強い理系や看護医療、教育学部等の資格系が人気であり、逆に不況下で就職に弱い法学、人文、経済等の人文社会系の不人気が顕著となりました。また就職では、震災の影響による先行きの不透明感から、特に県内の求人が激減し、他校では就職先を県外に求めなければならぬほど厳しい状況となりました。このような状況の下、本校の進学・就職実績は例年並みに推移し、五年連続就職内定率100%を達成出来たことは大変喜ばしい事です。今後はまだまだ一般人試が続いてまいります。生徒諸君の直向きな努力と合格を信じ、教職員一同、最後まで一杯支援してまいります。

平成23年度進路状況 平成24年2月20日現在（一部の学校のみ記載）

Table with 2 columns: 学校種別 (国公立大, 文部科学省管轄外の大学等, 私立大, 短期大学, 看護医療専門学校, 専門学校, 就職内定者) and 人数/学校名.

平成22年度合格状況（一部の学校のみ記載）

Table with 2 columns: 学校種別 (国公立大, 文部科学省管轄外の大学等, 私立大, 短期大学, 看護医療専門学校, 専門学校, 就職内定者) and 人数/学校名.

キャンパスライフ

東北学院大学経営学部

千葉 良彦



(平成21年度卒)

私は、初め大学に入学が決まった時、正直色々な不安で一杯だった。友人関係や、福島からでも通えるか、大学のシステムなど、分からないことがたくさんあった。

しかし、大学生活をエンジョイしていくにつれ、そんな不安は無くなった。今は、ゼミ活動やアルバイトなど、大学生にしか出来ない経験をし、多くの友人らとともに、充実した毎日を送っている。

来年からは、就活が始まるが、厳しい状況でも内定をもらえるように努力したい。

福島大学人間発達学部

藤田 夏美



(平成22年度卒)

震災の影響で入学式が延期となりましたが、無事入学し半年経ちました。

大学では専門分野の他に様々な分野を広く学んでいます。その中で今までの経験が活かされることも多く、成蹊高校で勉強してきたよかったです。

他専攻、他県出身の人との関わりやいろいろな演奏会への出演では、新たな発見や驚きがたくさんあります。

高校時代とは違い、好きな音楽が思う存分でき、とても充実した毎日を送っています。

夢が叶って

穴澤 あすか

(平成18年度卒)

教育実習で母校の教員になりたいと宣言してから早一年半。私は今そこに立っている。ようやく掴んだ夢である。しかし現実には楽しいことばかりではない。教えることの難しさを日々実感している。毎日

繰返し伝え、共に行動することで生徒はようやく動くのである。かつての自分もそうだったのである。そのように育ててくれた恩師のありがたさに、ようやく気が付くことが出来た。

微力ながら今後とも成蹊の発展に尽力していきたい。

在校生の活動状況について

震災を超えて全国へ

水泳部顧問 土田隆弘

本校水泳部は男子十二名、女子三名の計十五名で頑張ってきました。いつもであれば、三月に強化合宿を組み、シーズンに向けて始動、チーム作りをしていくのですが、今年度は震災で合宿先のプールが損傷したため合宿が組めず、また、気温が上がっても放射線の問題で室外プールの練習ができないという、練習環境としては最悪の形でシーズンが始まりました。

特に、福島県には普段の練習や大会で使用できる五〇M室内プールはありません。大会に向けての練習となると五〇Mプールでの練習は欠かせないので、本番の大会ではタイムが伸びてくるだろうかという不安がありました。しかも、地区大会が中止となり、調整もできず県大会が行われました。先が読めませんでしたが、子どもたちは不安を払拭してくれる泳ぎを見せ、男子は個人が五種目で優勝、リレーも全種目優勝で団体二連覇、女子も三名という少数な

がら、個人二種目で二位、一種目で三位、団体八位という結果を得ることができ、男女十三名が東北大会に駒を進めることができました。

中でも、特筆すべきは、一五〇〇M自由形に出場した三年生の遠藤太陽君が県新記録、県高校新記録で優勝したことです。震災時は他県のプールを借りて練習をし、高校生活最後の大会にかけていました。東北大会、そしてインターハイで活躍してくれるだろうとの期待が膨らみました。



東北大会は秋田県立総合プールで行われました。全国大会の切符は、各種目で三位以内に入るか、またはこの大会で標準記録を突破しなければ手にすることができません。

県大会の結果と他県の結果を比較すると、なかなか厳しいという印象でした。標準記録を見ても、特にリレー種目で、四〇〇Mリレーが標準記録まで二秒二、八〇〇Mリレーが三秒五、四〇〇Mメドレーリレーに至っては八秒四も縮めなければインターハイの切符を手に入れることができません。たった二秒、さほど二秒です。縮めることは簡単ではありません。子どもたちは標準記録を意識して、練習に望みました。その結果、個人では、三年生の遠藤太陽君が四〇〇M、一五〇〇M自由形で優勝、同じく三年生で



キャプテンでもある八巻峻耶君が五〇M自由形、二〇〇M個人メドレーともに二位、一年生の小川潤也君が一〇〇Mバタフライで二位、二〇〇Mバタフライで三位、リレーも、全種目で四位、標準記録を突破して全国大会の出場権を得ることができました。さらに、男子総合第二位という思ってもみなかった結果を得ることができました。

全国大会は岩手県の盛岡市立総合プールで行われました。それぞれ持てる力を発揮し、一生懸命頑張りました。その



結果、遠藤太陽君が、一五〇〇M自由形で、本校男子では初の表彰台、

三位入賞を果たしました。



子どもたちがこれらの良い結果を残すことができましたのは、同窓会の皆様を初め、地域の方々、我々を支えてくださるすべての方のおかげと感謝しております。その感謝を込めて、十一月には岡部にあるヘルシーランド福島のパントに参加し、一般の方に泳ぎ方の指導をして参りました。



今後とも、感謝の気持ちを忘れず、頑張っていきたいと思っております。どうぞご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。



昭和4年度 卒業アルバムより (和裁)



世代をつなぐ桃李の絆
100th Anniversary
FUKUSHIMA
SEIKEI

2013年が百周年です



昭和2年度 卒業アルバムより (刺繍)

百年の歴史を共有する



福島成蹊学園参事

金子 昭七

同窓生の皆様の多大なご協力に感謝申し上げます。百周年を象徴するキャッチフレーズの募集にも三百件を超える応募をいただき、最優秀賞に高校三年生の渡部優輝君の作品が輝き、キャッチフレーズも「世代をつなぐ桃李の絆」に決定しました。ロゴマークも決まり、いよいよ百周年への取り組みが加速してまいります。

私が、この職務につきまして三年になりますが、多くの先輩方と接することができました。その中から本校の先輩方の頑張りや母校にたいする思いの強さ・深さを痛切に感じ取ることができました。成蹊の百年のあゆみを探るために学校保存のアルバムや、お貸し戴いた貴重な写真を大正年代から現在まで六百枚以上のものをA4サイズにして保存できるように整理しました。その写真を同窓会室掲示板に順次紹介しております。ご来校の際には是非ご覧ください。百周年はすぐそこまで来ておりますが同窓生の皆様のお力添えを重ねてお願い申し上げます。



- 一組 佐久間 隼也
- 二組 石巻 裕祥
- 三組 八巻 和裕
- 四組 舟山 勝
- 五組 渡邊 久
- 六組 佐久間 久
- 七組 杉原 玲
- 八組 有馬 綾
- 九組 柴野 舜
- 十組 菅野 美
- 十一組 相馬 聡
- 十二組 高橋 稜
- 十三組 宮形 恭秀
- 十四組 尾形 美
- 十五組 八尾 美
- 十六組 樋口 莉
- 十七組 榎口 美
- 十八組 黒崎 美
- 十九組 沼崎 美

新幹事

事務局だより

会報18号は、昭和35・45・55・平成元・2・3年度卒業の皆様に送付いたします。今後、卒業年度を追って順次会報を送付する予定です。皆様にご協力いただきました運営協力費は現在一七、一五〇〇円となっております。会報送付等に使用していただきたいと思います。引き続きご協力をお願いいたします。

平成24年度 総会のお知らせ

- 日 時／平成24年6月10日(日) 午前10時30分～
- 場 所／ホテル福島グリーンパレス
- 内 容／総会 懇親会
アトラクション・母校ギター部演奏
- 会 費／3,000円 (全日本ギターコンクール金賞受賞)
- 問合わせ先／福島成蹊高等学校
同窓会事務局 TEL 024-522-2049

クラス会開催の場合は、名簿を事務局にご提出して下さい。(二千元の通信費を補助いたします)

退職される先生方

- 教諭 三本 博美
- 教諭 高橋 洋
- 教諭 鴨宮 大典
- 教諭 栃久保 晴佳
- 教諭 中原 裕樹

編集後記

今年度は百年のあゆみを編集してみました。懐かしいセピア色の写真・思い出の行事・クラブ活動等、歴史をひもとき読んでいただければ幸いです。ご感想をお寄せ下さい。